

V. 特記事項

1. ベトナム・ハロン大学外国語学部日本語学科の授業

平成 29 (2017) 年に、ベトナム・クアンニン省ハロン大学との連携が結ばれた。北海道のベトナム友好訪問団に本学代表も参加し、現地を訪問した際に日本語教師の派遣要請があったが、COVID-19 の影響で直接担当教員の派遣は不可能になってしまった。そこでオンラインでの授業で実施された。令和 4 (2022) 年 6 月より開始、令和 5 (2023) 年度末に集中講義に本学講師を派遣する。

資料V - 1 - 1 「旭川市立大学及び旭川市立大学短期大学部国際交流委員会規程」(第4条)

資料V - 1 - 2 「旭川市立大学経済学部教務委員会規程」(第 4 条)

2. ラーメン甲子園の開催；地域社会との連携プロジェクト

地元愛の涵養を企図して経済学部江口ゼミナールが「ラーメン甲子園」を 2016 年から開催している。旭川の代表的食文化である「旭川ラーメン」を軸にして、地元の魅力の再発見を目指している。新型コロナの影響で3年間中断していたが、今年から再開する。同プロジェクトは、高校生を対象にした「ラーメン作り競技大会」である。高校生が開発したオリジナルラーメンを、大会当日に実演販売して、来場した試食者の投票で各賞を授与する。

ゼミ生は、地元企業の実務家やラーメン店主などで実行委員会を形成して、大学生は運営事務局を担当する。準備期間中に、各種団体へ後援を募りポスター・チラシを作成し、地元企業を訪問して協賛を得る。高校を回って出場校を決め、ラーメン店と交渉して顧問店としての協力を依頼する。当日は高校生が主役で、大学生は大会の運営を裏方として支える。

高校生は、旭川を代表する食文化のラーメンについてのセミナーを本学で受講後、ラーメン作りの指導を担当する協力店で修行、オリジナルラーメンを開発して事前に仕込み、大会当日に実演販売する。本学学生はこれらの全プロセスに関わる。

資料V - 2 - 1 「ラーメン甲子園資料」

3. 地域に根ざした地域密着型の研究と教育の実践

本学の教育研究事業の個性と特色は、あらゆる場面で「地域を科学する」ことである。旭川市をはじめとした北海道北部市町村を対象に研究及び教育を実施している。

- (1) 都市部：「旭川市中心市街地・郊外地区のまちづくり」を支える研究
- (2) 農村部：北海道北部地域圏における「過疎地域のまちづくり」を支える研究
- (3) 農村部：地域密着型のフィールド教育

資料V - 3 - 1 「教育研究活動助成申請一覧」

資料V - 3 - 2 「旭川大学後援会会報第 105 号-2019」, 「永山の地域誌『群像-わたしたちの永山-』を発刊しました」, p. 9.

資料V - 3 - 3 「群像-わたしたちの永山-」旭川大学・旭川大学短期大学部・旭川大学地域研究所、発行：永山まちづくり推進協議会・永山地域文化振興実行委員会、平成 31 (2019) 年 3 月 31 日

資料V - 3 - 4 「旭川大学後援会会報第 104 号-2018」, 「地域に学び、地域を支えたいー地域調査から厚真震災ボランティア、そして今後の復興支援へー」, p. 4.

資料V - 3 - 5 「地域に根ざしたゼミナールの一例」及び「北海道北部市町村を対象にした研究内容一覧」